

# 常磐大学大学院における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（以下「ディプロマ・ポリシー」といいます。）とは、大学が教育活動の成果として学生に保証する最低限の能力（修了時の到達目標）のことをいいます。

本学では、各研究科の教育研究上の目的に基づき、研究科ごとに掲げています。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）（以下「カリキュラム・ポリシー」といいます。）とは、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）で入学した学生の学習と成長を、ディプロマ・ポリシーまで引き上げるための戦略のことをいいます。

本学では、各研究科の教育研究上の目的に基づき、研究科ごとに掲げています。

## 人間科学研究科

### 博士課程（後期）

#### ディプロマ・ポリシー

本研究科は、人間科学の専攻分野について、自立した研究活動を推進し、学術、文化の振興に寄与できる研究者、および高度な専門的知識を身につけて社会の福祉の増進に寄与できる高度専門的職業人を育成します。

1. 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見だし、自立した研究者または高度に専門的な業務の従事者として社会一般の福祉の向上に貢献できる。
2. 人間科学の専攻分野と関連領域において、奥深く研究した高度な専門的能力を基礎に、世界的視野で考え、当該分野でリーダーとして問題解決を指導できる。

#### カリキュラム・ポリシー

##### 1. 編成方針

人間や社会にまつわる諸科学を極めるために、生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、社会福祉学など、人間追究に欠かせない諸科学を集め、学際的、複眼的に人間をとらえることができるように以下の2つの領域でカリキュラムを編成しています。第一領域では、「人間に関わる真理」と「人間に関わる問題」を、これまでの生命科学、心理学、精神医学、教育学などの知見を関連させながら、科学的に究明できるような科目を配置しています。第二領域では、人間の本質と、社会と個人の結合原理を理論的、実証的に考究する領域です。個人から集団・社会、そして国際社会に至る人間のコミュニケーション行動を理解するために、主として社会学と社会心理学、コミュニケーション学、組織科学、情報と社会、被害者学、地域振興と地域福祉学の視点から研究するための科目を配置しています。

##### 2. 実施方針

- (1) 博士レベルの研究遂行の基礎となる技能を習得し、研究倫理に関する知識を身につけるための教育を行います。
- (2) 自らの専門分野における博士レベルの研究に必要な知識を習得し、研究に必要なデータの収集、分析技法を習得するための教育を行います。
- (3) 学位にふさわしい研究を遂行し、高度に専門的な研究論文を作成できるための教育を行います。

## 修士課程

### ディプロマ・ポリシー

本研究科は、人間科学の専攻分野について、学術、文化の振興に寄与できる研究者、および高度な知識を身につけて社会の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を育成します。

1. 人間科学の幅広い視点にたつて人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。
2. 人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。

### カリキュラム・ポリシー

#### 1. 編成方針

生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、といった周辺諸科学の英知を集め、複眼的に人間理解に努めることができるように共通科目と2つの領域でカリキュラムを編成しています。

#### 2. 実施方針

- (1) 共通科目「人間科学の方法論研究」等では、学際的な人間科学を大学院で学ぶために必要となる、基礎知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。
- (2) 第一領域「人間科学」では、人間の発達と適応、人間と社会・コミュニケーションについて、心理学、教育学、社会学を中心とした人間科学の視点から探究できるような科目を配置し、教育を行います。
- (3) 第二領域「臨床心理学」では、社会の中で生きる個としての人間が抱えるさまざまな心の問題に対して、研究に基づく心理臨床を実践できる臨床心理士、および公認心理師を養成するため、臨床心理士および公認心理師受験資格取得に必要な教育を行います。
- (4) 共通科目の「修士論文研究」「修士論文特別研究」では、各学生の設定したテーマを探究するための教育を行います。

## 看護学研究科

### 修士課程

### ディプロマ・ポリシー

1. 看護ケアを継続的に改善するために、看護学及びその周辺領域の科学、人文科学の知識・知見を統合できる。
2. 質改善と安全上の課題を特定し、方法、ツール、パフォーマンス測定、基準の明確化など質保証の原則を組織内で適用することを例証できる。
3. 提供する看護ケアや看護介入をより効率的にするために最新の科学技術や情報科学を積極的に活用できる。
4. 既存の研究知見を適用・応用し、上級レベルの知識を実践に転換でき、実践上の課題を解決し、その結果を普及することの重要性を認識できる。
5. 政策策定プロセスを用いて、人々の健康と擁護及び職業的発展のために政策や方針を改善または提案できる。
6. 質の高い、安全な看護を提供するために、組織とシステムのリーダーシップ及び教育の原則を実践現場に適用・応用できる。
7. 健康成果の改善を目指した専門職チームのメンバー及びリーダーとして、ケアの調整やコンサルテーションの役割を理解し、専門職間のコミュニケーションや協働の重要性を認識できる。
8. 臨床予防とヘルスプロモーションを目指す看護の提供において、文化的側面に配慮しながら人と家

族／市民中心の方略を提案できる。

## カリキュラム・ポリシー

### 1. 編成方針

本研究科の教育課程は、「共通科目」「専門支持科目」「専門科目」の科目群から編成し、全ての学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）達成を目指して体系的な学修ができるように、履修順序は、原則として、1年次に学修の基盤となる「共通科目」と「専門支持科目」を、1年次後半から2年次は専門性を高める「専門科目」を配置する。

学修成果の評価は、講義・演習科目、実習科目別に予めシラバスに明示した評価方法と評価基準に従って厳正に評価する。また、修了時には「研究」科目に対して別途定められた審査の手続きや論文審査基準に則った論文審査を行う。同時に最終試験も実施し、合否判定を行う。

これらの前提に立って学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材養成の目的を果たすために、本研究科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。

### 2. 実施方針

- (1) 「看護理論と関連科学」及び領域別特論4科目などの講義をとおして、看護ケアを継続的に改善するために、看護学及びその周辺領域の科学、人文科学の知識を統合し、看護に活かす方法論を主にした学際的教育を行う。
- (2) 質改善と安全上の課題に関する評価ツール及びパフォーマンス測定基準に関する基礎知識を学んだうえで、事例を用いた演習及び実践現場での実習をとおして質保証の原則を組織内で適用できる教育を行う。
- (3) 講義・演習・実習をとおして、最新の科学技術や情報科学を積極的に活用し、看護ケアや看護介入をより効率的にするための教育を行う。
- (4) 領域を超えた学生同士のディスカッションを取り入れた講義をとおして、エビデンスに基づいた実践に関する基礎知識と方法論を学ぶとともに政策策定プロセスを用いた政策や方針の改善・提案ができる教育を行う。
- (5) リーダーとしての役割、協働の重要性に関する基礎知識や方法論を講義で学び、実習をとおして現場のさまざまな課題解決のためにリーダーシップ及び教育の原則を実践現場に適用できる教育を行う。
- (6) 講義・演習・実習をとおして、臨床予防やヘルスプロモーションを目指す看護の提供において、文化、価値観、自律性を尊重しながら人と家族／市民中心の方略を提案し改善できる教育を行う。